

# 令和6年度 学校評価（後期）

伊予市立下灘小学校（令和11月）

【評定基準】 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:8割未満の達成

【評価基準】 ◎:8割以上が肯定 ○:6割以上が肯定 △:6割未満が肯定

重点目標	番号	評価指標 及び 目標値 ※ 目標値は、教職員・児童・保護者の肯定率が、80%以上が肯定である。	評定			学校による考察・改善方策	対象	達成評価			肯定率			集計結果					
			R5後	R6前	R6後			R5後	R6前	R6後	R5後	R6前	R6後	4 大変良い	3 良い	2 あまり良くない	1 良くない		
		学校は楽しい。	A	A	A	学校で楽しく学習したり、遊んだりできている。全員が「学校は楽しい」と回答できるように、今後も取り組んでいきたい。	児童	◎	◎	◎	92%	→	96%	→	96%	63%	33%	4%	0%
「しっかりと考える子」を育む	1	本校では、チャイムの合図、次の授業の準備、話を聞く態度等、学習規律や学習態度の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学習規律・学習態度が身に付いていますか。	A	A	A	全体的に肯定率が高くなっており、これまでの積み重ねによる学習規律が浸透しているようである。児童は落ち着いた態度で学習に取り組み、授業中の席立ちがなくなってきている。今後も学校全体で学習規律や学習態度の定着に努め、非認知能力の向上を目指していきたい。	教職員	◎	◎	◎	83%	→	100%	→	100%	0%	100%	0%	0%
							児童	◎	◎	◎	81%	→	93%	→	97%	41%	56%	4%	0%
							保護者	◎	◎	◎	95%	→	88%	→	100%	25%	75%	0%	0%
	2	本校では、学習課題を明確にした、分かる授業づくりのための授業改善に努めていますが、あなたのお子さんは、文章を読み取ったり、読み取った内容や自分の考えを主体的に表現しようとしていたりしていますか。（参観日の授業や家庭での会話などから）	A	B	A	読解力ドリルなどのドリル学習や発表の機会の増加により、児童が自信を持ってきた成果が表れていると考える。今後も、自分の考えに自信を持って発信できる機会を確保し、主体的に表現しようとする機会を設けていきたい。	教職員	◎	○	◎	83%	→	60%	→	80%	40%	40%	20%	0%
							児童	◎	◎	◎	85%	→	93%	→	92%	33%	59%	7%	0%
							保護者	◎	○	◎	89%	→	75%	→	91%	33%	58%	8%	0%
	3	本校では、朝読書の時間を設けたり、児童会「図書委員会」から読書の楽しさを伝えたりして読書活動を推奨していますが、あなたのお子さんは、読書に親しんでいますか。	C	C	C	授業中に音読指導をすることで、長文を読む習慣が身に付いてきている。今後も図書委員会で工夫した取組（読書ビンゴや本の紹介など）を継続するとともに、学級でも定期的に指導を続け、児童に読書の楽しさを伝えることで、進んで読書に親しむ態度を育てていきたい。	教職員	○	△	○	67%	→	20%	→	60%	20%	40%	40%	0%
							児童	○	◎	○	77%	→	96%	→	77%	33%	44%	22%	0%
							保護者	○	○	○	63%	→	63%	→	67%	42%	25%	33%	0%
	4	本校では、ステップ学習や学んだことを振り返る機会を確保し、一人一人の実態に応じた学力の定着に努めていますが、あなたのお子さんは、学校で学習したことが身に付いていると思いますか。	A	A	A	朝ドリルの時間を中心に、学習したことをしっかり振り返る時間を確保したことにより、学力の定着につながってきている。今後も、タブレットPC(ELISやeライブラリ等)を有効的に活用したり、授業内容を改善したりして、児童のさらなる学力向上につなげていきたい。	教職員	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	40%	60%	0%	0%
							児童												
							保護者	◎	◎	◎	95%	→	88%	→	92%	42%	50%	8%	0%
「もくもくとがんばる子」を育む	5	あなたのお子さんは、早寝・早起き・朝ご飯を心掛け、食後の歯磨きなど望ましい生活習慣が身に付いていますか。	A	A	A	生活習慣チェックの結果でも、早起きや朝ごはんについては習慣化できている家庭が多い。一方で、早寝については、習い事がある日はどうしても遅くなってしまいう状況があり、疲労がたまっている児童もいる。また、ゲームやスマホ、タブレットの使用時間が長い児童もいる。時間の使い方を工夫して、休養をしっかり取れるように指導や支援をしていきたい。	教職員	◎	◎	◎	83%	→	80%	→	100%	40%	60%	0%	0%
							児童	◎	◎	◎	85%	→	96%	→	96%	52%	44%	4%	0%
							保護者	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	50%	50%	0%	0%
	6	本校では、登下校指導や学級活動等を通して、安全教育に努めましたが、あなたのお子さんは、登下校や遊びなど、いろいろな場面で、安全に注意して行動していますか。	A	A	A	地域の方の登下校時の見守りのおかげで、児童自身が交通安全等に意識できている。今後、児童自身が自分の命は自分で守るという意識を育てていく必要がある。そして、児童自身が、安全かどうかを判断する力を育て、互いに注意し合いながら学校生活を送れるようになるとよいと考える。	教職員	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	40%	60%	0%	0%
							児童	◎	◎	◎	81%	→	93%	→	92%	59%	33%	7%	0%
							保護者	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	42%	58%	0%	0%
	7	本校では、体育科の授業の充実及び、外遊びやITスタジアムへの参加による体力づくりに努めています。あなたのお子さんの体力は向上していると思いますか。	A	A	A	遊びや野球、業間マラソンなど、学年に応じて一人一人の体力が高まるように指導を続けている。ITスタジアムの競技にも挑戦し、クラス全員で目標に向かって運動する機会が良い方向に働いている。引き続き、運動に親しむ児童を育てていきたい。	教職員	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	80%	20%	0%	0%
							児童	◎	◎	◎	88%	→	96%	→	96%	59%	37%	4%	0%
							保護者	◎	◎	◎	95%	→	94%	→	100%	50%	50%	0%	0%
	8	本校では、3年生以上の子どもたちが下灘太鼓の練習に一生懸命取り組み、継承・発展に努めています。学校は、伝統や地域を大切にする気持ちを育てていると思いますか。	A	A	A	2学期からOBをはじめとしたゲストティーチャーに多数参加していただいている。先輩たちからの伝統を引き継ぐということをより意識して取り組んでいる成果だと考える。150周年記念行事での発表を目指して練習することで、より愛校心が高まっている。引き続き、地域人材が指導に関わることが肝要である。	教職員	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	100%	0%	0%	0%
							児童	◎	◎	◎	85%	→	93%	→	93%	52%	41%	7%	0%
							保護者	◎	◎	◎	100%	→	100%	→	100%	67%	33%	0%	0%

「なかよく明るい子」を育む	9	本校では、様々な教育活動を通して人権・同和教育の推進に努めていますが、あなたのお子さんは、互いの良さを認め合い、支え合う仲間づくりができていますか。	A → A → A	本校は少人数で複式学級である。児童全員が顔見知りであり、校内でも顔を合わせる機会が多い分、一度人間関係が崩れてしまうと立て直すことが困難である。家庭との連携を密にして、人間関係が悪化する前に対処できるようにしていきたい。2学期には高橋真実子氏による全校参観授業「鏡の中のぼく」の学習を行い、自分や他者の良さを知り、互いを大切にする児童の育成に務めた。今後も互いを大切にする児童の育成に努めていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 100% → 100%	44%	56%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	95% → 94% → 100%	33%	67%	0%	0%
	10	本校では、道徳教育の充実に努めていますが、あなたのお子さんは、思いやりや優しさ、望ましい行動や善悪を判断する力などの道徳性が育っていると思いますか。	A → A → A	道徳科では、2学年で学習することで、多様な考えに触れ、道徳的な判断力、心情、態度が育ってきていることが伺える。また、他校や地域との交流を取り入れることで、新たな人間関係を生み、自分の生活を支えてくださっている方の存在を知り、思いやりや優しさのある言動を心掛ける心情も芽生え始めている。今後も、道徳科の授業など様々な活動を通して、児童の道徳性を育んでいきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	20%	80%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 96% → 93%	52%	41%	7%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	33%	67%	0%	0%
	11	本校では、児童会「えがおいっぱい委員会」を中心に挨拶運動を推進していますが、あなたのお子さんは、家庭や地域で気持ちのよい挨拶ができていますか。	A → A → A	「えがおいっぱい委員会」の活動を中心に、挨拶ができる児童が増えている。今後も挨拶がよくできている児童を称揚するとともに、地域の人や来校者に挨拶をしたり、会釈をしたりするなど、相手や場面に応じた挨拶を意識していくよう指導を続け、進んで気持ちの良い挨拶ができる児童を育てていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	40%	60%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	81% → 100% → 100%	44%	56%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	75%	25%	0%	0%
「だんだんのびる子」を育む	12	本校では、子どもたちが自己肯定感をもてるように、一人一人を大切にされた指導の充実に努めています。あなたのお子さんは、自分のことを好きで大切だと思えることができますか。	A → A → A	小規模校の特質を生かして、一人一人を大切にされた指導に取り組んでいる。学校行事、集会等での地域の方との触れ合いの場を充実させていく中で、今後も児童が地域の一人として役に立ちたいという感情を育てていく必要がある。太鼓のゲストティーチャによる下灘太鼓の指導も、地域の方を含めた温かい人間関係の中で児童が育つ環境づくりに役立っている。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	40%	60%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	88% → 86% → 85%	37%	48%	15%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	89% → 88% → 100%	58%	42%	0%	0%
	13	本校では、学年の発達段階に応じて、相手と自分との関係を意識した敬語や丁寧語についての理解を促し、適切に使うことができるよう指導しています。あなたのお子さんは、時と場に応じた言葉遣いができていますか。	A → B → A	学校では、児童の言葉遣いについて気になったときにはその都度指導をしていくことで共通理解を図り、相手の気持ちに寄り添った、優しい言葉遣いができるよう指導を継続してきた。このことが評価にも反映されたと考える。今後も、敬語や丁寧語の使い方を通して、日常的な言葉遣いについて継続的に指導をしていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 80% → 80%	0%	80%	20%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 100% → 100%	44%	56%	0%	0%
					保護者	◎ → ○ → ◎	79% → 75% → 92%	17%	75%	8%	0%
	14	本校では、心のアンケートの定期的な実施や日常の触れ合いを通して児童理解に努めていますが、教員は、児童の変化や悩みに適切に対応していると思いますか。	A → A → A	児童とゆっくりと話す機会は十分確保できたが、学校生活に対する不安を相談できる場面が十分でなかった。小規模校の特質を生かし、一人一人にしっかり向き合って指導に取り組んでいきたい。今後、児童一人一人に対応した時間を確保し、児童の内面に寄り添い、個に応じた指導や支援を行っていきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	88% → 93% → 92%	33%	59%	7%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 91%	33%	58%	8%	0%
管理・運営	15	本校では、避難訓練や防犯訓練、非常時の引き渡し訓練を実施しています。学校は、これを通して児童に安全対応能力を育てていると思いますか。	A → A → A	災害はいつ発生するか分からない。自分の命は自分で守る意識が必要である。今後も実際に災害が発生したときに起こるであろう混乱を想定した避難訓練を実施していきたい。2学期には原子力災害の発生を想定し、地域と一緒に避難訓練を行った。これからも地域を含めた防災に取り組んでいきたい。そして、災害発生前後の市への連絡、保護者へ対応、地域との連携等に冷静に対応できるように訓練を重ねたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	60%	40%	0%	0%
					児童	◎ → ◎ → ◎	92% → 100% → 100%	56%	44%	0%	0%
					保護者	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	50%	50%	0%	0%
	16	勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進に努め、自らの働き方の改善を図っていますか。	A → A → A	超勤時間についてはやや改善が見られる。今後も、教職員一人一人が意識して、自ら働き方をマネジメントしていく必要がある。労力(時間)対効果を判断しながら働く意識を持つ必要がある。	教職員	◎ → ◎ → ◎	83% → 100% → 100%	40%	60%	0%	0%
	17	一人一人が自分の役割を自覚し、報告・共通理解・確認を密にしながら、組織として対応していますか。	A → A → C	互いの意識のすれ違いが見られた。連絡や報告が行き届いていないことがあったため、教職員がその内容を知らなかったこともあった。職朝や職員会の場を活用して、連絡や報告が遺漏なく行えるように努めたい。	教職員	◎ → ◎ → ○	83% → 80% → 60%	40%	20%	40%	0%
	18	会計事務、情報管理の厳正化や綱紀の保持など、服務規律の遵守に努めていますか。	A → A → A	会計事務や情報管理は、事務担当とも互いにチェックし合い、遺漏がないように行えた。不祥事防止のため、定期的に不祥事防止チェックを実施した。常に全体の奉仕者である意識を持てるように職員会等でサービスの順守を促していきたい。	教職員	◎ → ◎ → ◎	100% → 100% → 100%	40%	60%	0%	0%